

ユーザの変化と新しい時代の「テレビ」に向けて

スマートフォンでの「テレビ」体験に関するユーザ調査概要

April 15, 2016

株式会社インフォシティ 岩浪剛太



ユーザにとってのテレビ

▶ユーザにとって「テレビ」とは？（日本の場合）

最近テレビを見なくなったなー

テレビに出てる人だ！

テレビで見たことある

それテレビでやってた！

地震！テレビつけて！

昨日はずっとテレビ見てた

今日はテレビがつまんない

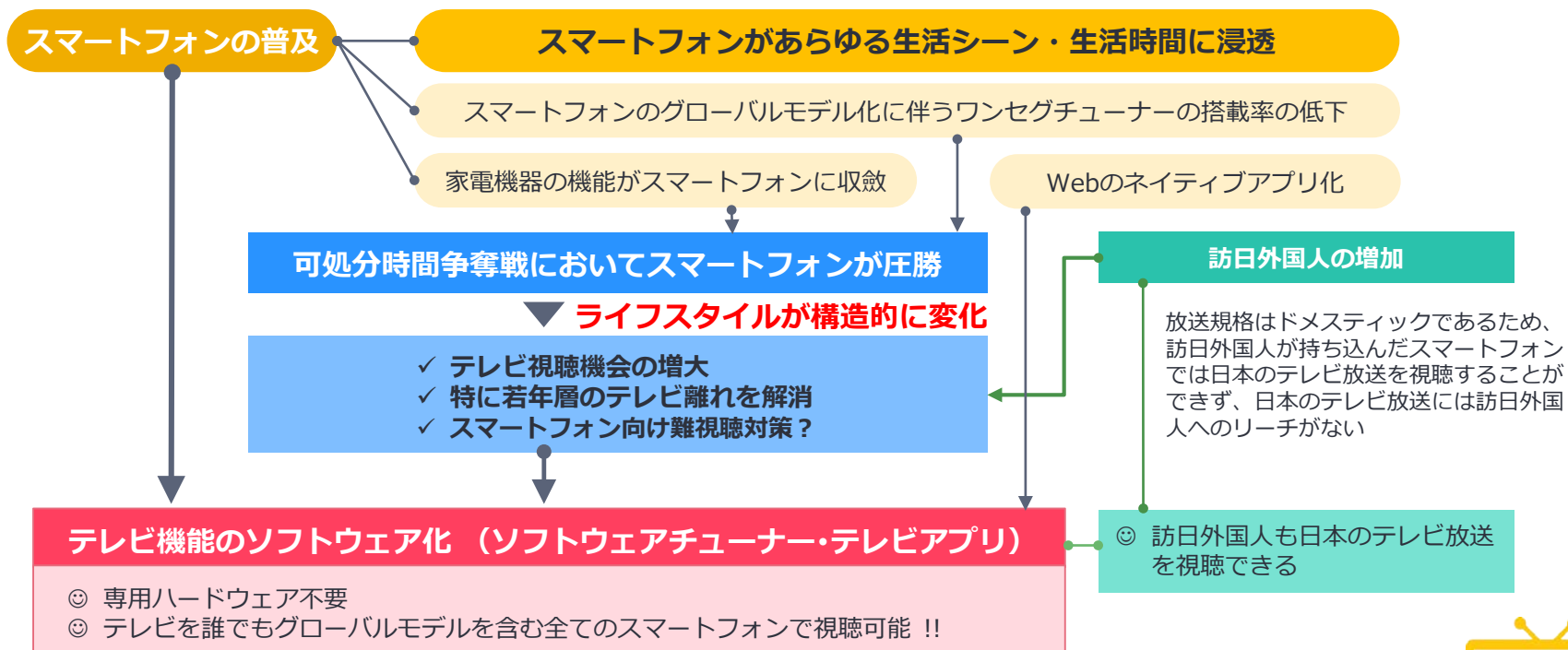


地上波テレビ放送

戦後復興、高度成長期から現在に至るまで60年間定着してきた日本人の生活シーン

テレビ ➡ 日本の生活習慣、生活基盤

ユーザの変化とその対応



対応策 (ユーザの生活環境変化に対応した補完措置として)

▶ 家庭のテレビをそのままスマートフォン上で実現

- 家庭のテレビそのままの機能
 - 起動、チャンネル切り替え、音量調整、音声モード切り替え、番組表、字幕、データ放送等、全ての挙動が家庭のテレビと同一
- ユーザから見て現状のテレビそのままの機能、コンテンツ、サービス
- 放送ビジネスから見て現状のビジネスモデルと同様（含、地域制御）



スマートフォンにおける「テレビ体験」の再現

▶ テレビ体験を実現するスマートフォン向けテレビアプリ

- **テレビ放送と同一サービスとみなす**ために必要な機能を実装 (iOS/Android)

ユーザから見てテレビと同一

- ・ 同一番組
- ・ 同一表現 (多チャンネル / データ放送 / 字幕 / EPG)
- ・ 同一時刻 (非VoD / 非タイムシフト / 非見逃し視聴)
- ・ 同一地域 (地域別サービス)
- ・ 同一機能

放送事業者から見てテレビと同一

- ・ 同一主体 (放送事業者によるサービス)
- ・ 同一運用 (放送事業者による運用)

→スマートフォン上にユーザ体験としての「テレビ」を再現

● 今回あえて実装しない機能

- ・ 録画、各種トリックプレイ、タイムシフト、マルチアングル、シーンダイジェスト等の高度視聴機能
- ・ VOD関連サービス、コンテンツ販売サービス等との連携機能
- ・ Web広告、ページへの埋め込み等、他サービスとの連携機能、ログ解析等の機能
- ・ SNS連携、セカンドスクリーン、多言語翻訳等の機能、など



- 新しいインターネットサービスではなく、テレビそのもの
- スマートフォンならではの便利な機能や高度な機能は当面ナシ

ユーザ調査実施概要

高度な放送・通信連携技術の活用に向けた地域の放送コンテンツ等の発信に関する調査研究/株式会社電通

実施時期 ▶ 2016年2月

調査対象 ▶ 10代～30代の若い世代を対象

主な調査項目

- ✕ 最近のTVとのつきあい方
- ✕ TVの視聴スタイル
- ✕ TV放送以外の動画利用とその影響
- ✕ スマートフォン向けテレビについての評価
- ✕ スマートフォン向けテレビに望む付加機能
- ✕ スマートフォン向けテレビの利用意向と想定利用場面

×

女子学生 [6名]

女性社会人・主婦 [6名]

男性社会人・学生 [6名]

実施手順

調査対象の選定

- 東京/神奈川/千葉/埼玉在住の民間アンケートモニター登録者に対し、募集用のウェブアンケート調査（228名応募）
- 家族構成、テレビ視聴時間、テレビ受像機の保有状況、スマートフォンの利用状況ができるだけ多様な構成となるよう18名を選定（学生は高校生も含める）
- 既にテレビ離れし視聴習慣がない人への効果を検証するため、被験者にはテレビ受像機を持っていない人や、たまにしかテレビを見ないという人も含める

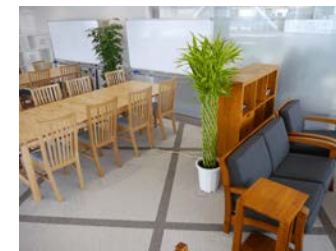
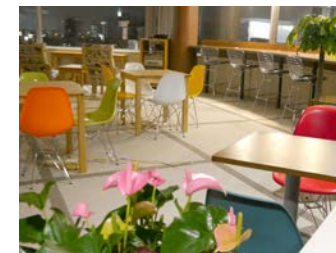
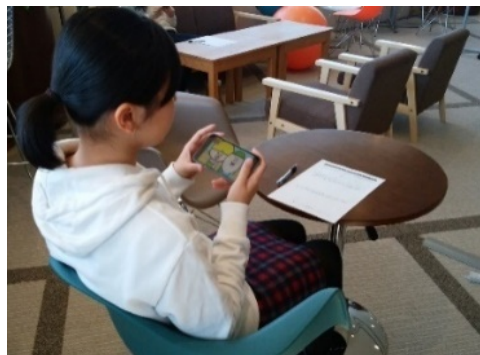
現在のテレビ視聴状況等のヒアリング

スマートフォン向けテレビの試用観察

利用/操作、サービス評価インタビュー

- ・ 操作説明ナシでトライ
- ・ 自宅のつもりで自由に視聴

検証会場の様子



※実験会場内の好みの場所に移動し、自宅やカフェ等の日常の生活空間に近い環境で、スマートフォンでのテレビ視聴を体験。

詳細な操作説明等は行わず、自力で支障なく視聴アプリの各種操作を行えるか調査員が観察・確認。

① 通常のテレビ・ネット動画の視聴傾向

女子学生

- テレビはお気に入りの番組を中心にしているが、録画視聴する人が多い。朝は生活習慣として見ている人が多い。
- 親と同居しているのでテレビは点いている。
- 以前に比べテレビ視聴のウエイトは減少しており、動画視聴をはじめスマートフォンの利用時間が増加している。
- ネットで視聴する動画は、短時間のオモシロ動画、好きなアーティストのライブ映像が多い。
- 短時間で楽しめるものを中心だが、リコメンドをたどって長時間視聴するケースもある。
- テレビ番組の投稿映像もよく視聴されている。
- SNSの影響が極めて大きく、SNSでの知人等からのリアルタイム情報提供がテレビ視聴のきっかけになることが多い。そのため「今放送している」「今気になった番組を」「今すぐここで」見たいというニーズが強い。
- 自分にとってのテレビ放送の必要性については意見が分かれており、今はテレビを視聴していても、将来はネットコンテンツで代替できるのではと考える人がいる一方で、テレビ放送のリアルタイム性、幅広い情報が得られることを評価する人もいる。

女性社会人

- 仕事または子育てで時間の余裕がなく、テレビ視聴時間が限られることが大きな特徴。
- 社会人は朝、夜にテレビを点けるが、朝は時計代わり、夜は疲れているため流れている番組をそのまま見る傾向が強い。子供のいる主婦は昼間がテレビ視聴の中心で、家族構成により視聴パターンが大きく異なる。
- テレビ視聴の変化については、ネットの影響というより、就職・出産・転居など自分自身の生活パターンの変化の影響が強い。
- 女子学生と異なり、SNSの情報から即時のテレビ視聴が喚起される傾向は少ない。
- 口コミ情報でテレビ番組に関心を持つことはあるが、女子学生に見られるようなリアルタイム番組情報ではなく、番組の感想が事後的に口コミで伝わっている。むしろ、他人とはあまり情報交換せず、番組表などを見て自分自身の好みで面白い番組を探そうとする傾向が強い。
- ネット動画は多くの人が見ているが、各自のピンポイント的なニーズに合う実用的な動画を視聴する傾向が強い。テレビを見る動機や集中力がない時にネット動画を見るというケースも含め、何らかの理由がある時にネット動画は見るが、映像視聴の基本はテレビという考え方が強い。
- テレビ視聴時間の制約が強いにも関わらず、ベーシックな情報源としてテレビ放送の内容の広さやリアルタイム性を評価する意見が強い。逆に、時間の制約の中で学んだり世の中を知る手段としてテレビを評価している。

男性

- 時間の制約は強いが、朝と夜にテレビを見ることが習慣化しており、テレビ視聴が生活リズムの一部になっている。学生被験者ではそうした習慣化したテレビ視聴の傾向は見られないが家ではテレビが点いている。
- リアルタイムのテレビ視聴ニーズは、スポーツ中継では明らかにあるが、それはSNSからの情報によるのではなく、個人的な興味に基づくニーズである。テレビ視聴中はSNSを利用しないという人が大半であり、女子学生グループとは対照的であった。
- 動画配信サービスについては、YouTubeとHuluの利用者が多かった。YouTubeの視聴内容や視聴スタイルは人それぞれで、各自のニーズ、嗜好に沿って利用されている。テレビとは目的が異なり、テレビ視聴を代替するものとは考えられていない。
- Hulu契約者は、液晶テレビでテレビ放送でなくHuluを視聴する時間が長い。海外ドラマがまとめて見られることが契約の強い動機づけになっている。Huluの影響が顕著なのは、テレビ放送よりもレンタルビデオであり、Hulu契約者は全員、レンタルビデオは使わなくなったと述べている。
- テレビを所有していない学生は地方出身で、上京した際に経済的余裕がなくテレビ端末を購入できなかったとのこと。現在はテレビのない生活に慣れているが、お気に入りの番組の視聴ニーズが消えたわけではない。

② プロトタイプ試用後の評価

	画面・音声の品質	安定した受信・表示	チャンネル切替え	番組表の表示	データ放送・字幕の表示	操作性 ユーザビリティ/レスポンス/ 動作の安定性等
女子学生	<ul style="list-style-type: none"> 映像の画質への評価は極めて高い。 既存モバイルテレビ端末やYouTube等のネット動画の画質と比べて、はるかに映像がキレイという意見が大勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ワンセグとの比較で、電波が安定し映像が途切れないことが評価された。 映像がスムーズに再生されることの評価が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> スワイプでチャンネル切替えできること、チャンネル切替えなどの捜査の際にも反応がスムーズで安定していることが評価された。 チャンネルをダイレクトに選択できるが、横画面ではそれができない点が不便と指摘された。 	<ul style="list-style-type: none"> 番組表の表示が簡単にできることが評価された。リビングに設置された自宅のテレビまで行く必要なく番組表が見られることが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビ画面とデータ放送表示画面の幅を調整できるようにしてほしいとの要望があった。 字幕については肯定的。 視聴中に音声OFFにすると自動的に表示してほしいとの要望があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 操作性については全体に評価が高い。 チャンネル切替え時の操作、画面遷移については改善要望があった。
女性社会人	<ul style="list-style-type: none"> 映像品質については極めて高評価 通常のテレビ映像がそのままコンパクトになったとの印象を持つ人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ワンセグ放送の視聴経験のある人では特に、電波が安定し高画質の映像が途切れずに視聴できることへの期待感が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> コメントなし *スワイプによるチャンネル切替えは全員問題なく操作できていた 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい、便利と高評価 	<ul style="list-style-type: none"> データ放送で提供される番組関連情報や鉄道情報は便利な情報源になる 	<ul style="list-style-type: none"> 電車の中など両手が使えない状況でも、片手操作できる タッチにうまく反応しないケースがある
男性	<ul style="list-style-type: none"> 映像品質については極めて高評価 	<ul style="list-style-type: none"> おおむね問題なかったが、番組表の縦横画面切替えでエラーが発生したとの報告が1件。 	<ul style="list-style-type: none"> コメントなし *スワイプによるチャンネル切替えは全員問題なく操作できていた 	<ul style="list-style-type: none"> 番組表の評価が極めて高かった。(1週間の番組の一覧性、詳細な情報提供など) 番組ジャンルの色分けなどの要望があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 字幕は、利用する/しないの意見が分かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 操作性に対する評価も概して高く、操作時のマーク表示もわかりやすいと評価された。

③ ユーザが望む付加機能等

女子学生

- SNSとの連携利用
- 録画機能
- 広告、リコメンド機能
- その他

- テレビ視聴中にLINE等を利用できるように、マルチタスクの画面構成にしてほしいとの要望が多く出された。
- 録画機能がほしいと6名中5名が要望した。
- 単体での録画でなく、自宅テレビの録画機能と連動できるとよいとの意見もあった。
- SNSとの連動機能は強く要望しているが、第三者からのツイートやメッセージの表示には拒否反応が強い。広告表示は否定しないが、画面操作時に意図しない画面切替えを生じるとは嫌われている。
- データ画面や番組表画面のマークや配色などを自分の好みでカスタマイズやデコレーションしたいという意見があった。また、電池切れが気になるため、電池残量表示機能が求められた。

女性社会人

- 商品情報提供
- 録画、テレビ端末との連携
- 電子メール/LINEとのマルチタスク利用
- 番組リコメンド

- 番組登場人物の衣服など、番組に関連する店舗・商品情報提供の要望が強い。これらの情報の記録（メモ）機能も要望された。
- 録画機能のほか、他のテレビ端末との連動機能の要望があった。契約している衛星放送を視聴できる、他の端末で録画した番組を視聴できるなど。
- 電子メール、LINEの送受信とのマルチタスク利用の要望があった。
- 好みの番組を簡単に探す機能や、番組視聴履歴をもとに他の番組をリコメンドする機能も求められた。これらの機能は、より積極的なテレビ視聴につながり、テレビ視聴時間が増えるとの意見があった。

男性

- 録画機能
- 番組リコメンド
- 地上波チャンネル以外の視聴機能
- 外部サイトへのリンク
- その他

- 女性グループほどではないが、録画機能があればよいとの意見があった。
- 自分のお気に入り登録し、関連性の高い番組を案内するリコメンド機能の要望があった。
- 衛星放送、ケーブルテレビ等の有料チャンネル視聴の要望があった。
- 東京にいて地方局の放送を視聴できると魅力的だとの意見があった。
- 番組公式サイトへのリンクや、番組で紹介した商品や店のサイトへのリンクの希望も挙がったが、女性グループほど強い意見ではなかった。
- 横画面で視聴する時にも電池残量表示がほしいとの意見があった。

④ プロトタイプの利用意向と想定利用場面

アプリとサービスが実用化した場合の利用意向

想定する利用場面

女子学生

- 全員が利用したいとの意見。
- 6名中4名は、テレビ視聴時間が増えると回答。
 - 自分ひとりで部屋で見たい時とか、すごいイイなと思った。
 - 親とチャンネルが重なり録画して後で見ていた月9も、これであれば録画せずに、スマホでリアルタイムで見るなと思った。
 - これがあったら、また睡眠時間が削られてしまいそうで、不安。
 - 見たい放送は見るが、こっちで見るかテレビで見るかの違いで、量は増えないと思う。

- 通学の電車の中、自宅での入浴中、自分の部屋でなど、様々な場面が挙がった。
- 全員、自宅には液晶テレビがあるので、自宅でも利用するかは意見が分かれた。
 - 今でもスマホを持ってお風呂に入ることがあるので、これだったら実家でなくても、お風呂でテレビを見るかもしれない。
 - 部屋で見るにも、たぶんスマホでぜんぜんイイかなと思う。
 - 見るとすれば、通学中が洗濯や料理をしている時、リビングに居なくてドラマの続きが見たい時など、一緒に持って移動する。
 - 部活がある時は帰りが7時、8時になってしまうが、その時間帯に見たい番組もあるので、見ることもあるかもしれない。
 - 家に居る時テレビとスマホだったら大画面テレビで見たい。できる限り大きい画面で見たいのと、タブレットだと立て掛けて寝ころがりながら見られるので、家に居る時はタブレットがいい。でも、ぜんぜんスマホでも問題ないので、外にいる時はスマホを使いたいと思う。
 - 家でチャンネル争いも無いので、家に居る時は、たぶん使わないと思う。外で使うとなると、電車の中で見ていて隣の人に盗み見られるのも悔しいから、小さい画面の方がいいので、使うとすればスマホかなと思う。
 - スポーツ番組は録画して後で観ても何の臨場感も無いので、生で見たい。外であればスマホで、家に居れば大きい画面のテレビで、生で見たい。

女性社会人

- 6名中5名が、このアプリを利用したいと回答。
- アプリを利用するとした5名はいずれも、テレビ視聴時間が増えると回答。
- 残り1名は、外出時にテレビを見ないことと健康への影響の懸念が利用しない理由。
 - 出先とか家に居ない時にテレビを見ていないのと、健康上のことが気になってしまうので、家にあるテレビだけでセーブしておこうと思う。

- 通勤電車の中、外出中の隙間時間、外勤の移動中、入浴やトイレ中など、様々な利用シーンが提示された。
 - 通勤時間中の暇つぶしにはなるだろうと思う。また、外で空いた暇な時間にも見れていいだろうと思う。
 - 会社に行つての話題作りにもなりそう。外勤の移動中や、ちょっと空いた時間とかにも使えそうだった。
 - 入浴中にお風呂でテレビが見れるのもいいし、あとトイレでも使えそう。『あっ、トイレに行きたい、でも続きも見たい』となった時など。
 - 昼間は働いているので、見れないワイドショーやドラマの再放送などを、昼休みに見れたら、すごく面白いかなと思った。

男性

- 全員がこのアプリを利用したいとの意見。
- 現在、テレビ受像機を所有していない学生ユーザも、このアプリが利用できるならばテレビを見ると回答。
 - これが、自分のスマートフォンにもインストールできて、気軽にデータ通信量など気にせず使えるのなら、通学時間とかに使ってみたいと思う。（それは、福岡の番組が見れなくても？）見れたらなおいいが、見れなくても、この使いやすさだったら、使ってみようかなと思った。

- 通勤・通学途中や外勤時のほか、家族と別の番組を見たい時、入浴中、自分の部屋で、布団の中でなど、自宅内で利用するとの意見が多く出た。
 - 気軽にデータ通信量など気にせず使えるのなら、通学時間とかに使ってみたいと思う。
 - 外出先や、会社の休憩時間とかに、一人でゆっくり見たいと思う。
 - 外回りの時、カーナビは運転中はテレビが見れない設定になっているので、これでテレビが見れたら、とてもいいと思う。ラジオ感覚みたいな形ではあるけど、イヤホンしながら通勤中に聞いていれば、それなりに頭にも入ってくるので、そういう使い方ができるのかなと思う。
 - これが使えるなら、お風呂の中で見る。
 - 自分の部屋で部屋の片づけをしながら、点けっぱなしにしておくっていう使い方をするかもしれない。(BGMのような感じで)
 - 布団の中では見ると思う。今もそういう見方をしているので、たぶん見方としてはそういう感じかなという気がする。

[スマートフォン向けテレビのユーザ受容性]

【現在のテレビ視聴状況とスマートフォン向けテレビの利用意向比較】

【現在のテレビ視聴場所と利用したい場所】

性別	職業	自宅のテレビ台数	テレビ視聴時間	利用意向	テレビ視聴時間が増える	現在のテレビ視聴状況		スマホテレビサービスの利用意向	
						自宅	外出中	自宅	外出中
女性	大学生	1台	毎日1～2時間くらい	○	-	○	×	×	○
	大学生	1台	毎日2～4時間くらい	○	○	○	×	○	○
	大学生	1台	毎日2～4時間くらい	○	○	○	○ (通学電車)	○	○
	高校生	2台	毎日1～2時間くらい	○	○	○	×	○	○
	高校生	1台	毎日1～2時間くらい	○	○	○	○ (自家用車)	○	○
	大学生	2台	毎日2～4時間くらい	○	-	○	×	○	×
	会社員	1台	毎日2～4時間くらい	○	○	○	×	×	○
	会社員	2台	毎日1～2時間くらい	×	-	○	○ (自家用車)	×	×
	会社員	1台	たまに見る程度	○	○	○	×	×	○
	主婦	1台	毎日4時間以上	○	○	○	×	○	×
	会社員	1台	毎日4時間以上	○	○	○	○ (通勤電車)	○	○
主婦	1台	毎日2～4時間くらい	○	○	○	×	○	○	
男性	大学生	1台	毎日1～2時間くらい	○	○	○	×	○	×
	大学生	1台もない	たまに見る程度	○	○	×	×	○	○
	会社員	2台	毎日4時間以上	○	○	○	×	×	○
	会社員	2台	毎日2～4時間くらい	○	-	○	○ (箱根駅伝)	○	○
	会社員	1台(スマホ)	毎日1～2時間くらい	○	-	○	○ (試合中継)	○	○
	会社員	1台	毎日2～4時間くらい	○	○	○	○ (外回り中)	○	○

[スマートフォン向けテレビのユーザ受容性]

● サービスの受容性と利用効果

- ✓ 現在あまりテレビを見ていない人も含めて幅広いユーザに受容性がある

● 時間・場所を選ばない利用ニーズ

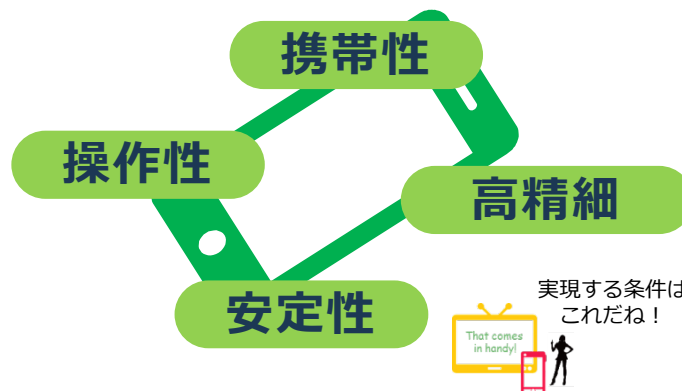
- ✓ 隙間時間や外出中のテレビ視聴を大幅に増加させることが期待できる
- ✓ 様々な理由で自宅のテレビ視聴に制約がある人たちにおける自宅でのテレビ視聴にもプラスに作用

● 「テレビ離れ」の抑止効果

- ✓ テレビ視聴に消極的な人でも、テレビ視聴ニーズが完全に消失したわけではなく、その人のニーズに応えられる視聴環境が用意されれば、テレビを見る生活に復帰することを示唆
- ✓ 既にテレビ視聴から離れてしまっているユーザを呼び戻す効果だけでなく、今後一人暮らし等を機にテレビ視聴から遠ざかる恐れのある若年層を「引き留める」効果も期待できる

スマートフォン向けテレビ

テレビ視聴を促進する効果アリ

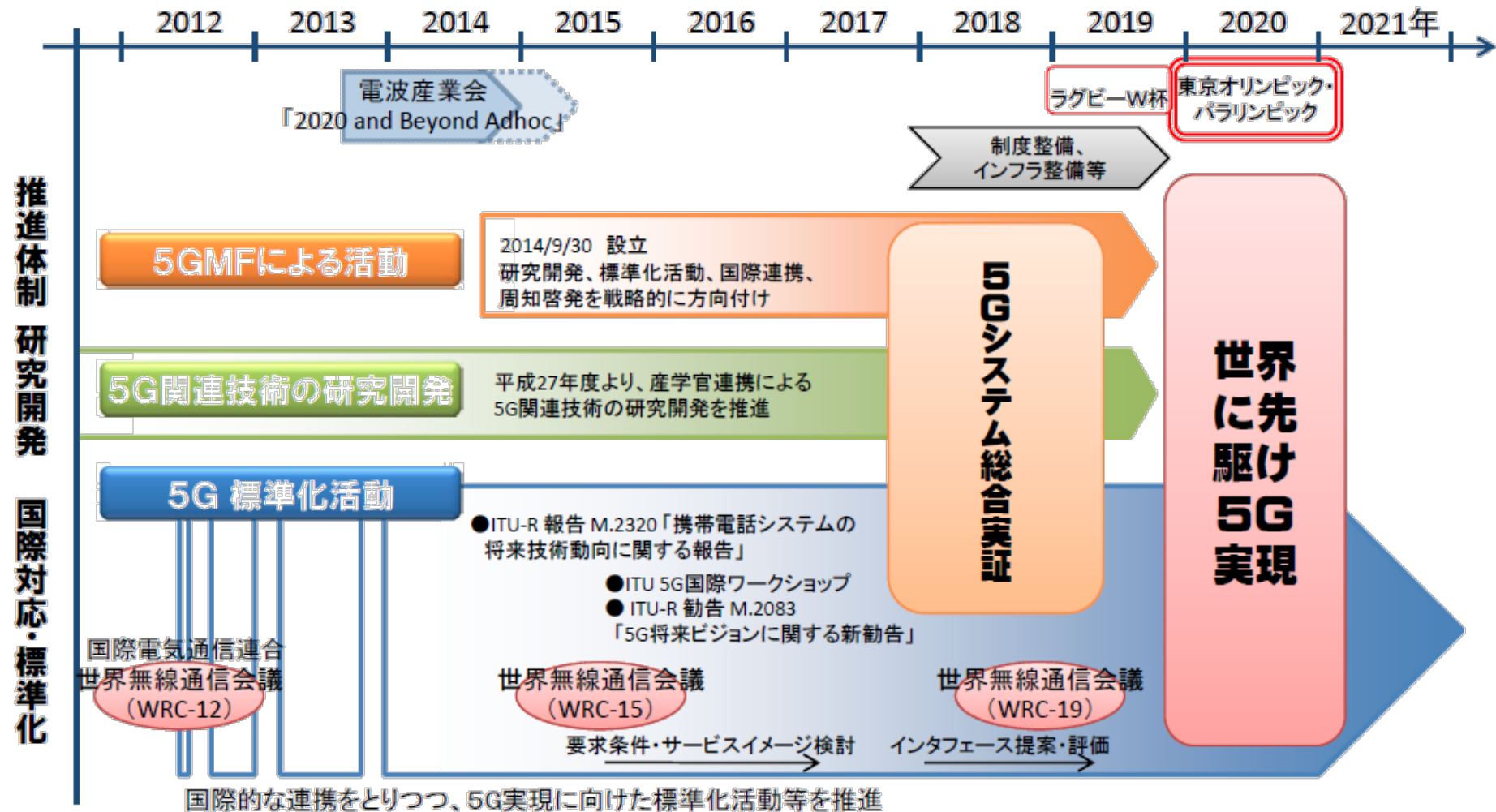


【テレビ視聴に消極的なユーザの発言の変化（使用前/使用后）】

	テレビ視聴に関するコメント（使用前）		スマートフォン向けテレビ試用後のコメント
女子大学生	地上波は要らないなと思ったことがある。見たら面白いから見てしまうが、見なくても全然平気で、実際にドラマも3年間くらい全然見ていない期間もあった。	➡	キレイでサクサクしてる。ワンセグと全然違うなと思った。電波が切れないので、ずっと見ていられそう。これなら「ながら見」もしちゃうと思う。
女子高校生	家にテレビがあるから点いていれば見てしまうが、ニュースとかも全部スマホで見られるし、一人暮らしするとしたら、テレビは必要ないかなと思う。	➡	深夜にやっている番組が面白くて睡眠時間が短くなりすぎ、反省して深夜テレビを見なくしたが、これがあつたらまた睡眠時間が削られてしまいそう。
女性会社員	朝も夜もテレビは点けているが、あまりちゃんと見ていない。土日は寝ていることが多い。テレビには全然こだわりはない。	➡	普段は仕事で見られないワイドショーやドラマの再放送を昼休みに見られたら、すごく面白いかなと思った。会社の人と話題作りとして、これを見ながら話したりもできるかなと。
男子大学生	上京した時にテレビを買えなかったの、テレビを持っていない。テレビは録画でしか見ない。最近はHuluに登録してそちらを見るようになったので、録画も見るのがだいぶ少なくなった。	➡	自分のスマホにインストールしてデータ通信料を気にせず使えるなら、通学時間とかに使ってみたい。地方から東京に出てきてテレビを見なくなるということがなくなり、全国どこへ行っても生活習慣を変えずにテレビを楽しむことができれば、すごく魅力的だなと思った。

参考 - テクノロジーの変化

第5世代移動通信システム（5G）推進ロードマップ

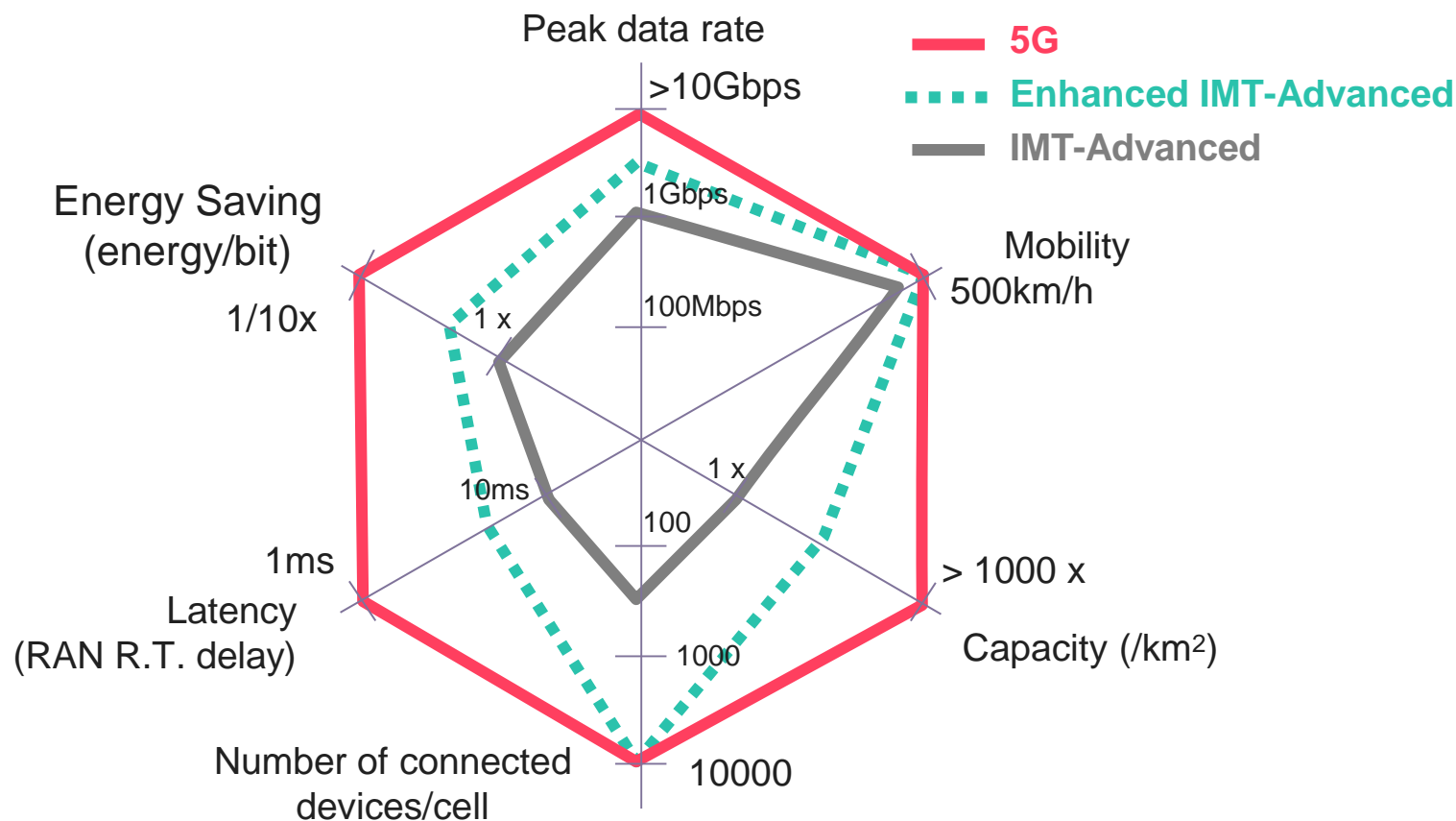


参考 - テクノロジーの変化



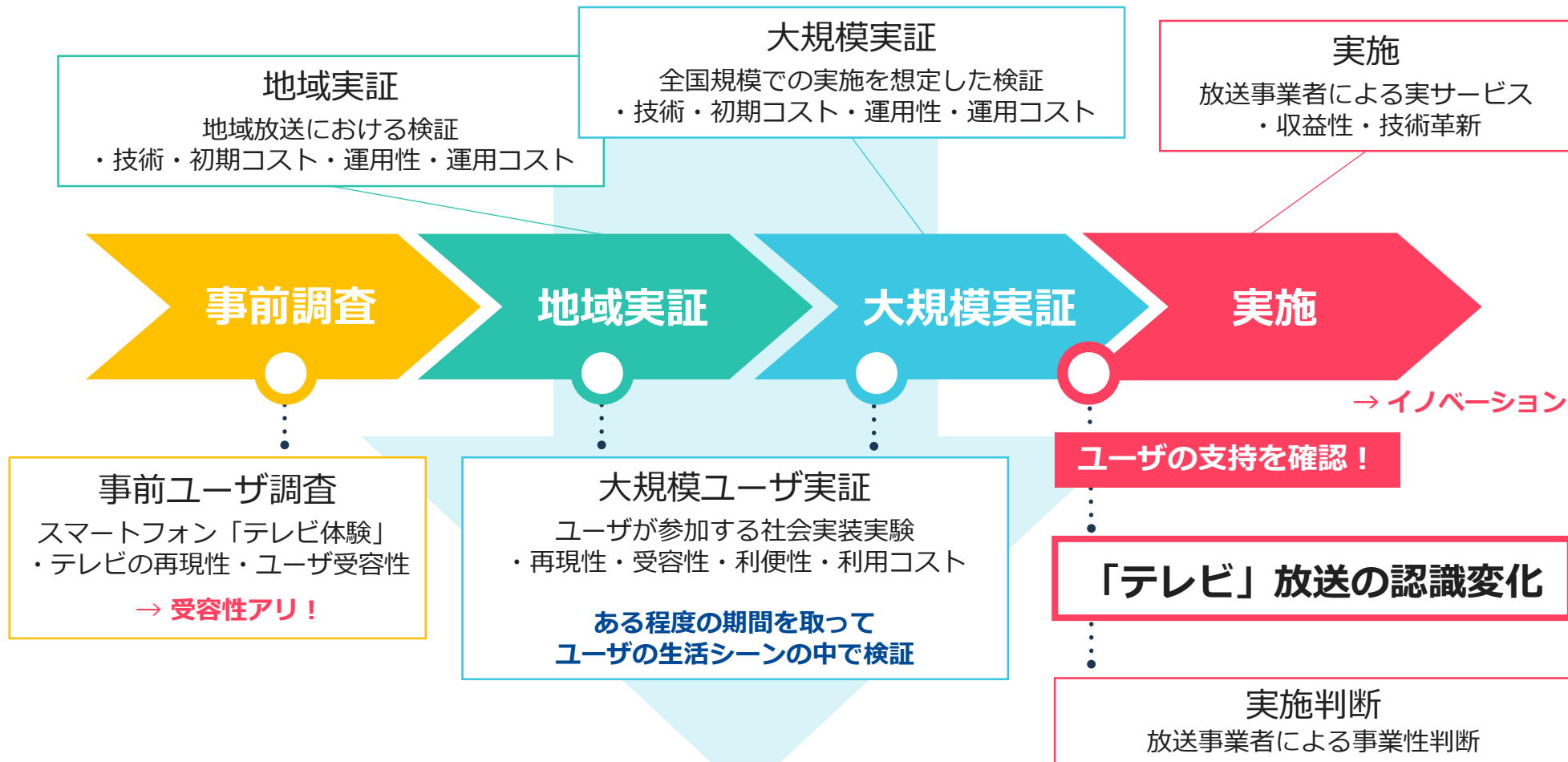
Example of Framework for 5G (2)

Maximum system capabilities



ユーザの変化に対応した「テレビ」の実現に向けて

▶スマートフォン「テレビ」実現に向けたプロセス



ユーザを巻き込んだ大規模実証実験の実施